

## 謹賀新年



令和5年(2023年)正月

## ■ ご挨拶 会長 高石 勝巳

皆様明けましておめでとうございます  
本年も宜しくお願い申し上げます



～目でたさも 中くらいなり おらが春～ <一茶>

昨年もいろいろな出来事がたくさんありました。思い返すと、相変わらず猛威を振るうコロナ、我々も取り組んだ参議院選挙(当選した村田きょう子さんは大活躍)、安倍元首相の暗殺事件と統一教会問題の浮上、医療費・介護費の高齢者への負担増の流れ、更には原発の新增設への急激な政策転換などなど。そして掉尾を飾ったのがワールドカップでの日本勢の活躍でした。

ところで 昨年1年の日本を表す漢字は「戦」でありました。

これは当然ロシアによるウクライナへの  
写真: 日本漢字能力検定協会  
侵攻を意識したものです。近年これほどまでにインパクトの強いできごとはありませんでした。

私は昭和17年生まれ、戦禍の中で育ちました(例えば、横浜の生家は空襲で焼失)。従って、戦争については本能的に忌避してきましたし、憲法9条の平和主義は日本の国是として守るべきものとして学んできました。

しかし、憲法が想定する国際情勢には程遠いのが現状です。日本周辺でもロシア、北朝鮮、中国とはそれぞれ課題を抱えています。

未だ収束の見えないウクライナ問題を契機に日本は自国の防衛という主題をより一層真剣に考える必要に迫られました。憲法9条という重しはあるものの安倍内閣での集団的安保の法制化などで9条の軛から離れ、その条文が形骸化してきているのも実態です。

「国力あつての防衛力」「防衛力あつての国家」という自明の理の下で防衛力とは何か(必ずしも独自の軍備力だけではない)を明確化することも必要でしょう。幸い、与野党とも防衛力強化という大きな方向では一致しています。今後はより具体的な施策や、国力に見合った防衛力・その予算措置(GNPの2%)などについて国会で大いに議論してもらわなければなりません。今後の日本のありようを決定する重要な問題であり、場合によっては選挙で信を問うことも必要です。

会員の皆様のお考えはいかがでしょうか。

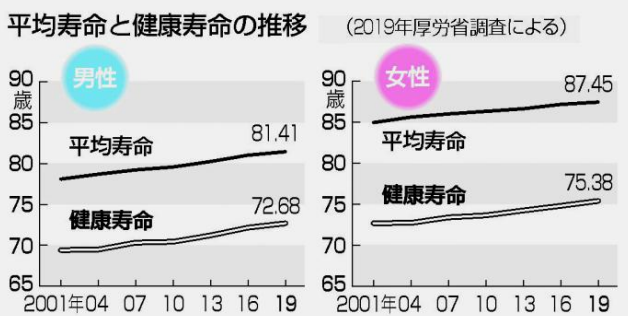
私事ですが、80歳の壁を越え身体的に不具合も生じ病院との縁が深くなりました。巻頭の一茶の句はそれ故なのですが、今年も会員の皆様と共に活動を展開していこうと考えています。ご支援頂けますようお願い申し上げます。

## ■ 活動報告「Online 会合報告」

12月27日(火)に毎月定例の会合を開催しました。ネット上に掲載される「本要約チャンネル」は活字に触れることなく、内容を丁寧に紹介してくれます。その中から3冊をピックアップして紹介。



人生100年時代に向かって身体的に曲がり角となる80歳の壁を乗り越えるための策が述べられています。 <http://jvc-senior.com/20221227online.pdf> 参照



この図は昨年も掲載。寿命の伸びと共に健康寿命も伸びているが、その差は不健康な期間。寿命を延ばすとともにこの間をいかに狭めて行くかが課題。それぞれ学んでください。

## ■ 公取委 価格転嫁拒否企業名公表

公正取引委員会は12月27日、下請け企業などとの間で原燃料費や人件費といったコスト上昇分を取引価格に反映する協議をしなかったとして13社・団体の名前を公表した。こうした行為は独占禁止法の「優越的地位の乱用」に該当する恐れがある。【日経新聞】

社名は <https://youtu.be/xsvHOj3SV4I> 【テレビ朝日】参照

小紙前号において「安いニッポン脱却への意識改革」と題してある新聞記事を紹介しました。

その中で、物価高騰の時代を反映し大企業の多くにおいて価格転嫁が行われているが、中小企業ではそれが進んでいない、と述べています。

今回の公取委の発表は中小企業の経営を安定させ、賃上げや成長投資が可能となることを狙っています。政府の「新しい資本主義実現会議」でも公取委の調査結果を踏まえて事業者名を公表する方針を示していたとのこと。

調査期間は2021年9月から22年8月で、受注者側8万、発注者側3万を対象として行い、名前が多く指摘された企業50社を抽出して、立ち入り調査や報告を求めたもので、特にブラックな会社・団体の名が今回初めて公表されたことになります。



優越的地位の乱用を戒めています。お孫さんのお年玉増額要求にどう対処しますか。

## ■ 戦と線

前号でサッカーワールドカップで、ベスト8どころか優勝も狙える！と書きましたが、予選リーグでのトップ通過で少々浮かれすぎでした。

それは次回以降の挑戦に期待するところです。

スペイン戦の勝敗を決した「三笥の1ミリ」はVAR(ビデオ・アシスタント・レフリー)の画像があつてこそその結果でした。戦いに臨み最後の瞬間まで与えられた使命に執着する姿こそ、真の戦士の姿です。



しかしVARが無ければこのボールの位置ではラインアウトと判定されても当然という状況でした。まさにこの戦いにおいて線を見極める最新技術が功を奏したことになります。

前ページの会長挨拶の中でも述べていますが、昨年の世相を示す漢字は「戦」でした。この漢字が選ばれた理由はロシア・ウクライナ戦争が強烈なインパクトを与えたことは間違いありません。かつてのソ連邦の中で両国は太い線で結ばれていたことと思います。しかし、昨年2月にこの線は切れて戦が始まりました。ソ連邦崩壊から30年も経ち、この間に線はどんどん細くなってしまった結果です。

コロナ発生から丸3年経過しました。この間、人類はコロナとの戦いの連続でした。コロナは変異し、威力を変えて人類に挑戦し続けています。

医療現場の最前線ではワクチンや治療薬で体制を整えコロナの攻撃を受け止めてきました。

戦いには常に最前線というものがあります。戦争にせよスポーツにせよこの最前線における戦いが勝敗を決する大きな鍵となります。

コロナとの戦いや戦争は一刻も早く終結することを望み、スポーツの世界ではさらに高みを求め挑戦し続けてほしいものです。

## ■ 事務局から

今年度の総会を2月11日(土・休日)に開催することに決定しました。コロナ禍で過去2年連続で書面審議の形式となってしまいましたが、今年こそはなんとしても対面での開催にしたいと考えております。皆様の予定を是非組んでおいてください。

詳細案内は1月10日(火)に郵送する予定です。そこに同封される出欠返信ハガキを1月28日までに投函してください。コロナに負けず行動しましょう。

事務局長 田代 周